

窓辺

朝鮮通信使

宮地 良樹

私が朝鮮通信使に興味を持つようになったのは、前任地の滋賀県立総合病院の近くに「朝鮮人街道」があり、中山道とは別に李氏朝鮮から国書を携えて江戸に赴くために来日した朝鮮通信使が使用したと知ったからです。「通信」とは単なる情報伝達ではなく「よしみを交わす」という意味で、豊臣秀吉による文禄・慶長の役の後、断絶していた朝鮮との修好のために再開され、第1回の通信使(当初は

回答兼刷還使)は駿府で徳川家康に謁見しています。趣味が高じて、私は釜山、対馬、鞆の浦、牛窓、室津など朝鮮通信使の軌跡をかなり訪ねました。対馬では、滋賀県出身の江戸時代の儒者で李氏朝鮮との通好実務にも携わった雨森芳洲の墓詣でまでしたほどです。静岡の清見寺には朝鮮通信使が遺した扁額が多くあると知ったので、早速先日訪れてきました。

閣からの眺望は見る影もなくコンクリートの清水港に変貌していましたが、しばし「ユネスコ世界の記憶」に思いをはせることができました。その後、「駐静岡韓国名誉領事」でもある静岡商工会議所の重鎮の方とお会いする機会があり、県朝鮮通信使研究会発刊の「静岡県の朝鮮通信使」をいただき、食い入るように拝読しました。

静岡には龍潭寺など他にもいくつもの朝鮮通信使の足跡が点綴されているので、これからの静岡県探訪に胸を躍らせています。

静岡社会健康医学
大学院 大学長

東海名区といわれた潮音